

講壇点滴

神の真実

出エジプト記 一六章一〜二、一六節
 コリント信徒への手紙I
 一〇章一〜一三節

牧師 姜 徑 米

神様の本当の姿は、一三節によって分かります。これが、パウロが語っている神様の本当の姿です。ここには、神様が私たちを試練に遭わせると語られています。神様は、時には試練を与えるのです。試練は苦しみ、悲しみです。どうしてこんな目に遭わなければならぬのか、神様の恵みなどといったどこにあるのか。しかしその苦しみは、神様からの試練です。試練は、神様が私たちを成長させるために与えるものです。試練の背後には、神様の愛が、私たちのことを大切に思っていてくださるみ心があるのです。

神様は、私たちを「耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださる」のです。試練は、私たちを滅ぼすためのものではありません。試練には、逃れる道が備えられているのです。試練も、逃れる道も、神様が与えくださるのです。試練と逃れる道を備えてくださる神様のことを一言で言い表したのが、「神は真実な方です」という言葉です。神は真実であるとは、神が、ご自分の言葉、約束を守り、それに忠実であってくださるということです。

独り子を十字架にかけてくださるほどに、神様は私たちに真実であるのです。それが、神様の本当の姿です。主イエスによって示され、与えられているこの神様の真実が、私たちを救い、支えるのです。信仰は、神様の真実に支えられて生きることです。「神は真実な方です」という信仰こそが、私たちに平安を与えるのです。

それではなぜ出エジプトの民のことが語られたのでしょうか。彼らは、神様の真実を見失ってしまったのです。苦しみの中で、それを神様からの試練として受け止めることができず、逃れる道を求めるのではなくて、自分の思いで勝手な神を造り、自分で自分を救おうとしたのです。そのために彼らは、倒れてしまったのです。私たちが、聞き取るべき警告はこれです。

主イエス・キリストによって示され、与えられている神様の真実を常に見つめ、それに依り頼むことによつて、私たちは御心に適う者であることができ、立ち続けることができるのです。さまざまな試練の信仰生活の中で私たちが心していなければならぬことは、神様の真実から目を離さずにいることです。私たちの救いを保証し、本当の平安を与えてくれるのは、神の真実です。洗礼と聖餐は、この神の真実を証しし、私たちをそれにあずからせるものです。私たちは、洗礼を受け、聖餐にあずかって生きることによって、主イエス・キリストによって示された神様の私たちへの真実を体験し、それによって与えられる平安の内に生きることができるようです。

(六月一三日 公同礼拝)

が回復を得られるように。
 コロナ禍により困難に置かれている諸教会を覚えて。

七月講壇一覽

第一主日 (七月四日)

公同礼拝

姜徑米牧師

「主の食卓にあずかる」

申命記三二・三〜六

コリントI一〇・一四〜二二

第二主日 (七月一日)

公同礼拝

高橋和人牧師

「命のパン」

出エジプト一六・一二〜一六

マタイ六・一一

第三主日 (七月八日)

公同礼拝

高橋和人牧師

「赦し」

詩編一三〇・三〜四

マタイ六・一二

第四主日 (七月二五日)

公同礼拝

高橋和人牧師

「誘惑」

詩編一七・六〜一五

マタイ六・一三

七月の祈り

不確かさと不安の時代にあつて、天の御心が地にもたらされるように。上にあるものを求め、信仰の希望に生きるものとなるように。

災害により困難に置かれている人々に主の御手が与えられるように。

主にある一つの教会として礼拝を共に守っているすべての教会を覚えて。